

STAR

フレールハイベスター

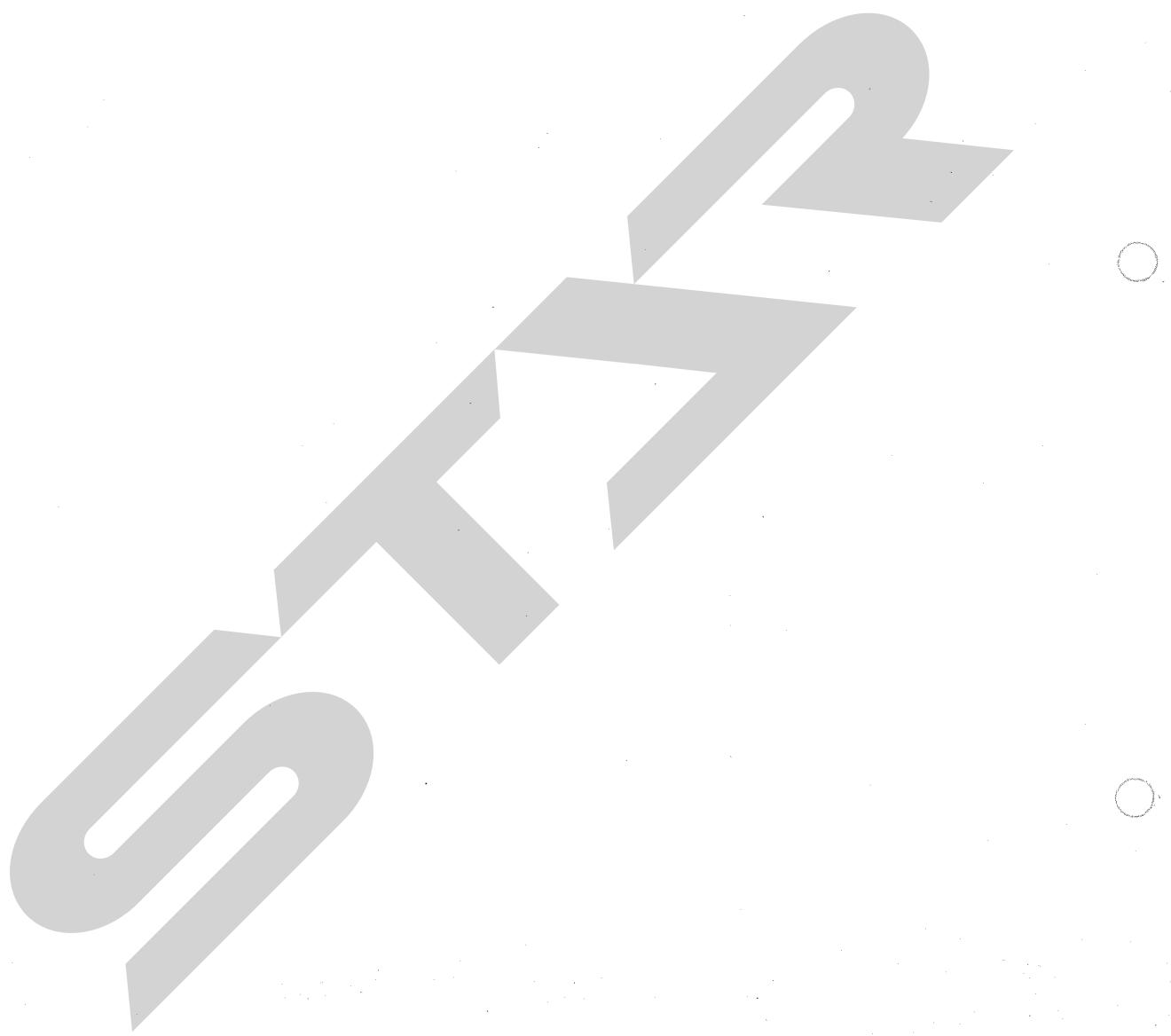
取扱説明書

製品コード	K43073
型式	MFH0930
製品コード	K43074
型式	MFH1130

部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上、
部品供給型式を必ずご連絡下さい。

“必読”機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社IHIスター



⚠ 安全に作業するため

安全に関する警告について

本機には、⚠印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

警告ラベルについて

⚠ 危険

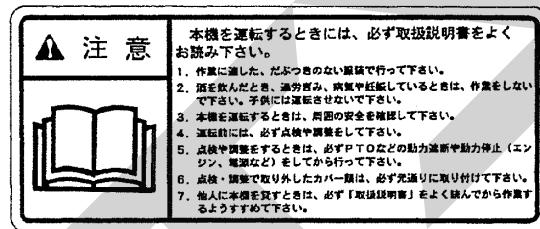
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

⚠ 注意

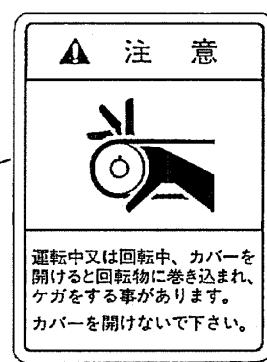
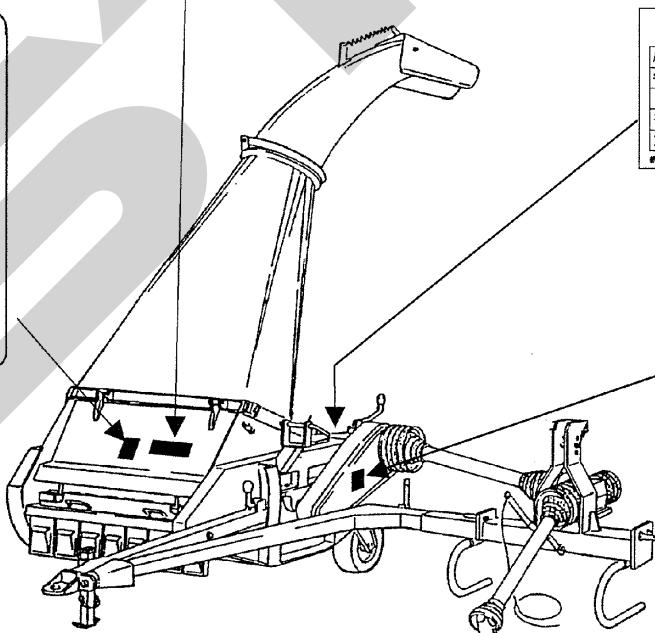
その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。



部品番号 106164



株式会社IHIスター	
IHI STAR Machinery Corporation	
農業機械の種類	
安 節 型 式	スター
型 式 MODEL	
部品供給型式	
製造番号 NO.	



— ラベルが損傷した時は —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへ危険を知らせる大切なものです。

ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。

注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用ください。

作業前に

取扱説明書は製品に近接して保存を

▲ 注意

- 機械の取り扱いで分からぬ事があった時、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こし、ケガをする事があります。
取扱説明書は分からぬ事があった時にすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

▲ 注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。
作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんな時は運転しないでください

▲ 警告

- 体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。次の場合は、運転しないでください。

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
- 酒を飲んだ時。
- 機械操作が未熟な人。
- 妊娠している時。

服装は作業に適していますか

▲ 警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。
次に示す服装で作業してください。

- 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。

- ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。
- ヘルメットを着用する。
- はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸す時は

▲ 警告

- 機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からぬため、思わぬ事故を起こす事があります。
取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

▲ 注意

- 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。
機械の改造はしないでください。
アタッチメントは、当社指定製品を使用してください。
部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

始業点検の励行

▲ 注意

- 始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。
作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

エンジン始動・発進する時は

▲ 警告

- エンジンを始動する時、トラクタの横やステップに立ったまま行うと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをする事があります。
運転席に座り、周囲の安全を確認してから行ってください。
- エンジンを始動する時、主変速レバーを「N」(中立)にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。
主変速レバーを「N」(中立)にして行ってください。
- PTOを切らないでエンジンを始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。
PTOを切ってから始動してください。

- 急発進するとトラクタ前輪が浮き上がる事があり、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。
- 室内で始動する時、排気ガスにより中毒になる事があります。
窓、戸などを開け、十分に換気してください。

作業機を着脱する時は

▲ 警告

- トラクタの3点リンクに作業機を着脱するためにはトラクタを移動させる時、トラクタと作業機の間に人がいると、挟まれてケガをすることがあります。
- トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。

▲ 注意

- 作業機をトラクタに連結する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
 - 装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。
- トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。
- バッテリーからバッテリーケーブルを外すときは（-）側から外し、取り付けるときは（+）側から行ってください。
- もし、逆にすると作業中工具がトラクタに接触した場合、火花が生じ、火災事故の原因になります。

パワージョイントを使用する時は

▲ 危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。
カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。
損傷したらすぐに取り替えてください。
使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱する時、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。
PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。

トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

▲ 注意

- 最伸時の重なりが100mmを下回ると、ジョイントを回転させた時、破損しケガをする事があります。
最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きる事があり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。
適正な重なり量で使用してください。
- パワージョイントを接続した時、クランプピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、ケガをする事があります。
クランプピンが溝に納まっているか、接続部を押し引きして確認してください。

公道走行時は作業機の装着禁止

▲ 注意

- トラクタに作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
トラクタに作業機を連結しての走行はしないでください。

移動走行する時は

▲ 危険

- 移動走行する時、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。
ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

▲ 警告

- トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。
トラクタには、運転者以外の人は乗せないでください。
- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。
急制動・急旋回はしないでください。
- 坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。
低速走行してください。
- 旋回する時、作業機が旋回方向とは逆方向にふくれるため、周囲の人に接触しケガをさせたり、対向物・障害物に衝突し、ケガをする事があります。
周囲の人や対向物・障害物との間に十分な間隔を保って行ってください。

- 側面が傾斜していたり、側溝がある道路で路肩走行すると転落事故を起こすことがあります。路肩走行はしないでください。
- 高低差の大きい段差を乗り越えようすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをすることがあります。あゆみ板を使用してください。
- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをすることがあります。
また、物を載せて走行すると、落下し、周囲の人へケガを負わせることがあります。
作業機の上には、人や物などはのせないでください。

▲ 注意

- ハーベスター本体はトレッドが狭いため旋回時、凹凸地・傾斜地の走行時転倒してケガをすることがあります。
低速走行してください。
- 作業機への動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせることがあります。
移動走行する時は、PTOを切ってください。

作業中は

作業する時は

▲ 警告

- 作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをすることがあります。
周囲に人を近づけないでください。
- 作業機指定のPTO回転数を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをすることがあります。
指定回転数を守ってください。
- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをすることがあります。
また、物を載せて作業すると、落下し、周囲の人へケガを負わせることがあります。
作業機の上には、人や物などはのせないでください。
- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねくことがあります。
低速で作業してください。
下り作業をする時、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。
坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおりてください。
- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こすことがあります。
前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。

- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こすことがあります。
しっかりとハンドルを握って運転してください。

▲ 注意

- 機械の調整や、付着物の除去などを行う時、PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。
PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

トラクタから離れる時は

▲ 警告

- トラクタから離れる時、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こすことがあります。
平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。
- トラクタから離れる時、作業機をあげたままにしておくと、第三者の不注意により不意に降下し、ケガをすることがあります。
下限まで降ろしてからトラクタを離れてください。

作業が終わったら

機体を清掃する時は

▲ 注意

- 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをすることがあります。
PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

終業点検の励行

▲ 注意

- 作業後の点検を怠ると、作業機の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをすることがあります。
作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整を行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをすることがあります。
トラクタ 3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

不調処置・点検・整備をする時

▲ 注意

- ナイフを研磨する時、目に飛散物が入る事があります。
保護メガネを着用してください。
- 機械に異常が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをすることがあります。
取扱説明書に基づき行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こすことがあります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。
PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- 作業機を上げた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下しケガをする事があります。
下に入る時は台などで降下防止をして行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをすることがあります。
元通りに取り付けてください。

もくじ



安全に作業するために

安全に関する警告について	1	作業が終わったら	5
作業前に	2	不調処置・点検・整備をする時	5
作業中は	4		

I フレールベースユニット

1

トラクタへの装着

1 各部の名称とはたらき	8	4 トラクタへの装着	10
2 適応トラクタの範囲	9	1. ドッキングフレームと	
3 組立部品	9	フレールベースユニットの連結	10
1. 解梱	9	2. スイッチボックスの取付・配線	11
2. 組立部品の明細	9	5 パワージョイントの装着	12
3. 組立	9	1. 安全カバーの着脱方法	12
		2. パワージョイントの連結	12

2

運転を始める前の点検

1 運転前の点検	13	2 給油箇所一覧表	13
1. 連結部の点検	13		
(1) ドッキングフレームとの 連結部点検	13		
(2) パワージョイントの点検	13		

3 作業の仕方

1 本 製 品 の 使 用 目 的 14	3 運	搬 14
2 作 業 要 領 14	1. フレールベースユニットの 取り外し 14		
1. 戻り高さの調整 14			
2. シュートの振り量の調整 14			

4 作業が終わったら

1 作 業 後 の 手 入 れ 15	2 長 期 格 納 す る 時 15
-----------------	----------	-----------------	----------

5 点検と整備について

1 点 檢 整 備 一 覧 表 16	1. ベルトの調整 17
2 各 部 の 調 整 17	2. フレールカッタの研磨 17
		3. タイヤの空気圧 17

6 不調時の対応

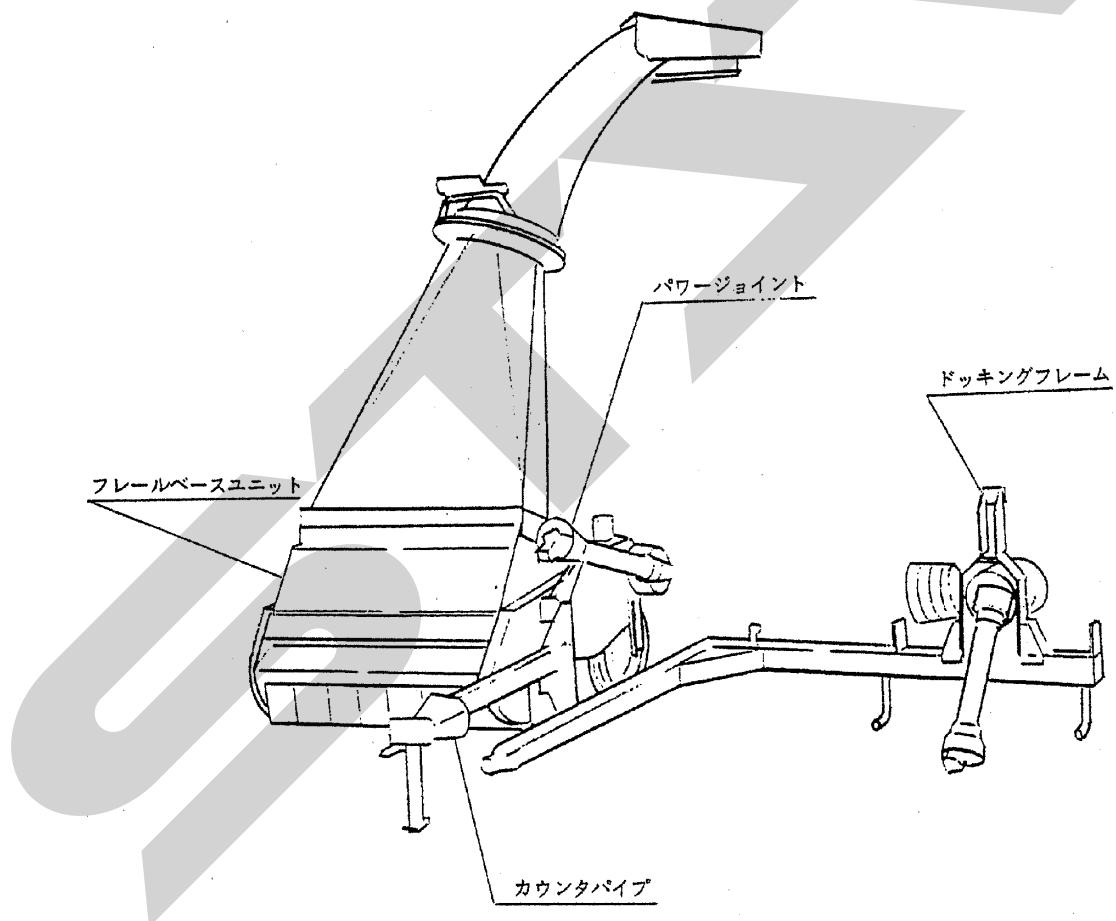
1 不 調 处 置 一 覧 表 18
-----------------	----------

I ハーベスタ本体

1 トラクタへの装着

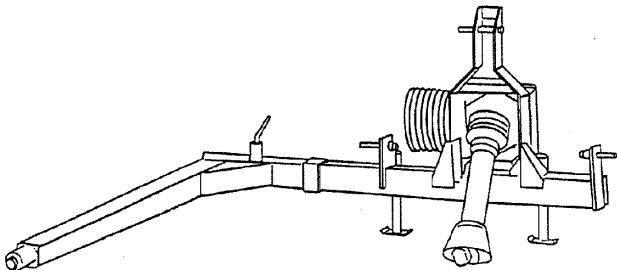
適切な装着で安全な作業をしましょう。

1 各部の名称とはたらき



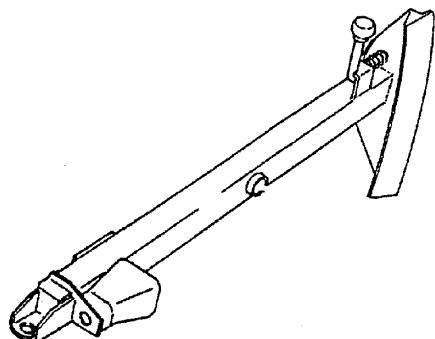
1. ドッキングフレーム

トラクタに装着してフレールベースユニットとの連結、動力の供給及び移動に使用します。



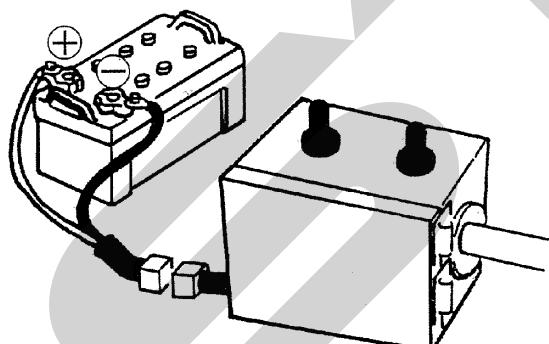
2. カウンタパイプ

ハーベスター本体とドッキングフレームを連結するための本体側の連結装置です。



3. スイッチボックス

トラクタに座ったままシートの回動、ヘッドの上下作動に使用します。



4. パワージョイント ; SE-060

(MFH0930 用)

パワージョイント ; MD-070

(MFH1130 用)

ドッキングフレームからフレールベースユニットへ動力を伝達します。

2 適応トラクタの範囲

本製品は、適切なトラクタとの装着により的確に性能を発揮できるように設計されています。

不適切なトラクタとの装着によっては本製品の耐久性に著しく影響を及ぼしたり、トラクタの運転操作に著しい悪影響を及ぼすことがあります。

この製品の適応トラクタは次のとおりです。

適応トラクタ	
MFH0930	11~29.5kW (15~40PS)
MFH1130	18~44kW (25~60PS)

本製品の適応トラクタより小さなトラクタで使用すると、負荷に対し十分なパワーが出ないことがあります。

逆に、適応トラクタよりも大きなトラクタでのご使用時には、過負荷に対し機体の適正値を越えたパワーが出てしまい、作業機の破損の原因になることがあります。

3 組立部品

1. 解 框

木枠に固定している部品をほどいてください。

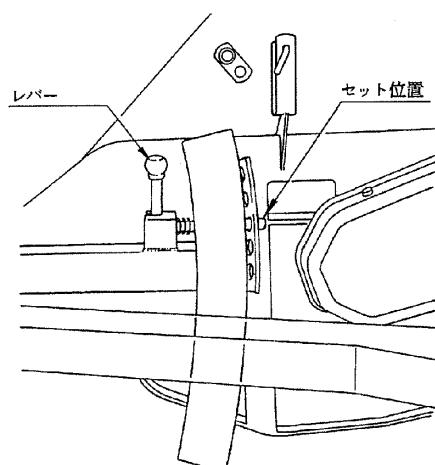
2. 組立部品の明細

梱包に同梱されている梱包明細に基づき、必要部品が揃っているか確認してください。

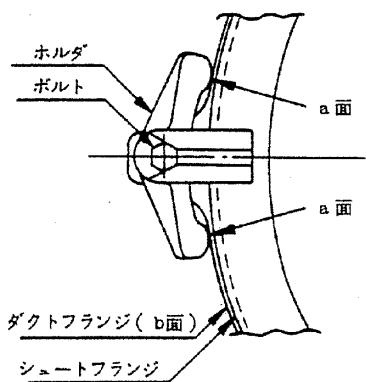
3. 組 立

各部品の組立に必要なボルト、ナット類は、梱包明細の符号を参照してください。

(1) カウンタパイプを図のように組み付け、スタンダードを取り付けてください。



- (2) ダクトにシートを取り付けてください。
図のようにダクト側フランジb面に、ホルダ a面が接するところでボルトを締め付けてください。



- (3) ダクトをケーシングに取り付けてください。
ダクトをケーシングに取り付ける時、クランプの締め付け力が弱いと事故につながるので、強く締めるようにフックボルトで調整してください。
(4) その他の部品を部品表を参考に取り付けてください。

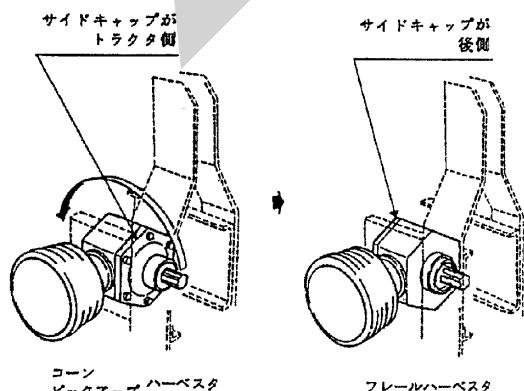
4 トラクタへの装着

1. ドッキングフレームとフレールベースユニットの連結

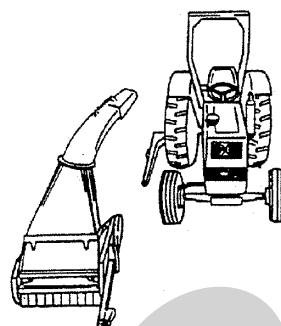
- (1) 3点リンクとドッキングフレームの連結
ドッキングフレームの取扱説明書に基づき
3点リンクとドッキングフレームを先に装着してください。
(2) ドッキングフレームとフレールベースユニットの連結

取扱い上の注意

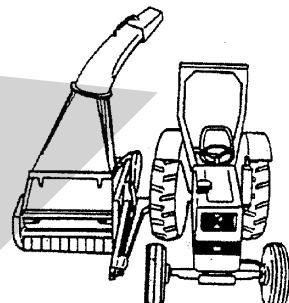
作業する前にドッキングフレームのギヤケースの向きを確認してください。



- ① フレールベースユニット後方より接近し前進しながらカウンタパイプのコネクタパイプ受に、油圧を調整しながらコネクタパイプ先端を差し込みます。

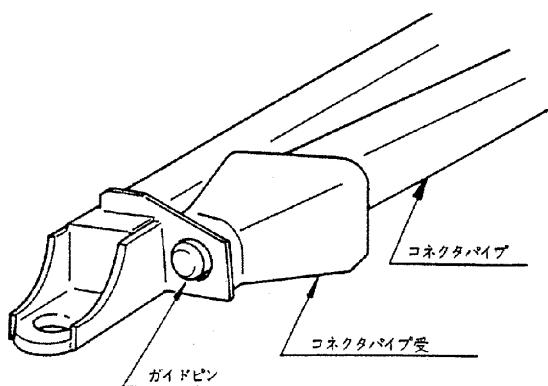


- ② コネクタパイプ先端が差し込まれたら油圧で本体を持ち上げ、さらに前進すると自動ロックによりフレールベースユニットとドッキングフレームが固定されます。

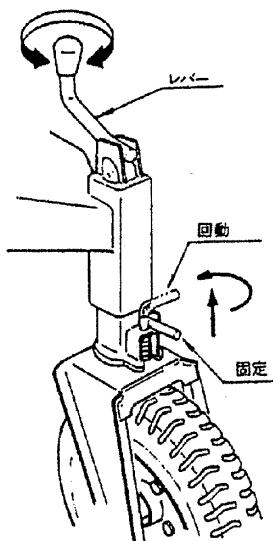


取扱い上の注意

ガイドピンがコネクタパイプ受前部からでていることを確認してください。(約30cm)
ガイドピンは作業中、本体の脱落を防止するものです。
ガイドピンが出ない時は「6 不調時処置一覧表」に基づき不具合を解消してください。



- ③ フレールベースユニット P I C 軸のパワージョイントを、ドッキングフレームのギヤケースの P T O 軸と連結し、安全カバーの回り止めをしてください。
- ④ フレールベースユニット後部のキャスターを回動位置にしてください。



取扱い上の注意

ドッキングフレームとフレールベースユニットを作業状態に装着して作業もしくは移動する時キャスターを固定位置で行うとキャスター部が破損します。

2. スイッチボックスの取付・配線

- (1) コード；1 (電源コード) を、バッテリターミナルへ取付けます。

コード；1 (電源コード) のターミナルはトラクタのバッテリコードのターミナルを止めているボルトと共に締めにしますのでバッテリから (-)、 (+) 共にコードを外してください。

(コードを外すときは (-) 側から外してください。)

トラクタのバッテリコードのナットを外し、コード；1 (電源コード) のターミナルを取り付け、ナットを締め付けます (バッテリターミナルへ取り付けるときは (+) 側から取り付けてください)

コードの極性は、白色が (+)、黒色が (-) です。

▲ 注意

- バッテリからバッテリケーブルを外す時は (-) 側から外し、取り付ける時は (+) 側から行つてください。
逆にすると作業中工具がトラクタに接触した場合、火花が生じ、火災事故の原因になります。

取扱い上の注意

コード；1 (電源コード) をバッテリターミナルへ取り付ける時に誤作動を防ぐためスイッチボックスに取り付けずコード単体で行ってください。

- (2) スイッチボックスをトラクタの操作し易い場所に取り付けてください。
スイッチボックスの取り付けは、磁石で行うので、できるだけ平らな面に取り付けてください。
- (3) コード；1 のソケットとスイッチボックスのソケットを接続してください。
- (4) 本体側のヘッド・シート用コードのソケットとスイッチボックスのソケットを接続してください。
- (5) 取り付け終了後は、各スイッチが表示通りの作動をするか確認してください。

取扱い上の注意

アタッチメントの取り付けは、それぞれⅡ、Ⅲ項をお読みください。

5 パワージョイントの装着

本製品には、専用のパワージョイントが付いていますので、他のパワージョイントで代用しないでください。

▲ 危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをすることがあります。カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをすることがあります。損傷したらすぐに取り替えてください。使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱する時、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをすることがあります。PTOを切り、トラクタのエンジンをとめてから行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをすることがあります。トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

2. パワージョイントの連結

作業時には、トラクタから動力伝達にLA-50とドッキングフレームからの動力伝達のためにMFH0930ではSE-060、MFH1130ではMD-070の2本のパワージョイントを使用します。

- (1) ピン付ヨークのクランプピンを押して、それぞれの軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。

▲ 注意

- パワージョイントを連結した時、クランプピンが軸の溝に納まっていると、使用中に外れ、ケガをすることがあります。溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

- (2) 安全カバーのチェーンを固定した所に取り付け、カバーの回転を防いでください。

チェーンは3点リンクの動きに順応できる余裕を持たせ、また他への引っかかりなどがないように余分なたるみを取ってください。

▲ 注意

- 最伸時の重なりが100mmを下回ると、ジョイントを回転させた時、破損しケガをすることがあります。最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きる事があり、ジョイントの破損をまねき、ケガをすることがあります。適正な重なり量で使用してください。

1. 安全カバーの脱着方法

- (1) 安全カバーからチェーンを外してください。
- (2) 安全カバーのチューブ側を固定し、ヨーク側カバーを反時計方向に回転してください。
- (3) ヨーク側カバーをチューブ側に押すとヨーク側カバーが外れます。
- (4) チューブ側カバーをパイプから抜いてください。
- (5) 新しい安全カバーを組み付けるときは逆の手順で行ってください。

2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

1 運転前の点検

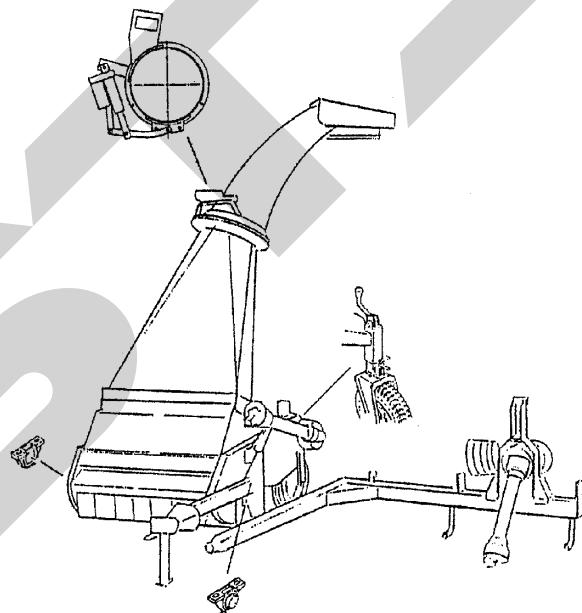
1. 連結部の点検

(1) ドッキングフレームとの連結部点検

- ① 自動ロックが掛かっているか。
- ② ガイドピンが出ているか。
- ③ 不具合が見つかった場合は、「1-4-1 ドッキングフレームとフレールベースユニットの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

2 給油箇所一覧表

- 給油・塗布するオイルは清浄なものを使用してください。
- グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。



No.	給油場所	個所	潤滑油の種類	交換時間	給油量	備考
1	ロータ軸軸受け	2	グリース	使用毎	適量	給脂
2	キャスター部	2	"	"	"	"
3	ジョイントスライド部	2	"	"	"	"
4	ジョイント；スパイダ	4	"	"	"	"
5	各回動部	—	オイル	"	"	注油
6	シューート；フランジ	給油穴3ヵ所	"	"	"	"

3 作業の仕方

安全を確認して、慎重に作業してください。

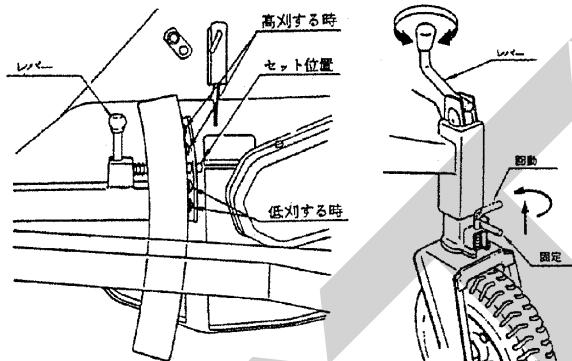
1 本製品の使用目的

牧草の刈取に使用します。他の用途には使わないでください。

2 作業のための調整

1. 刈高さの調整

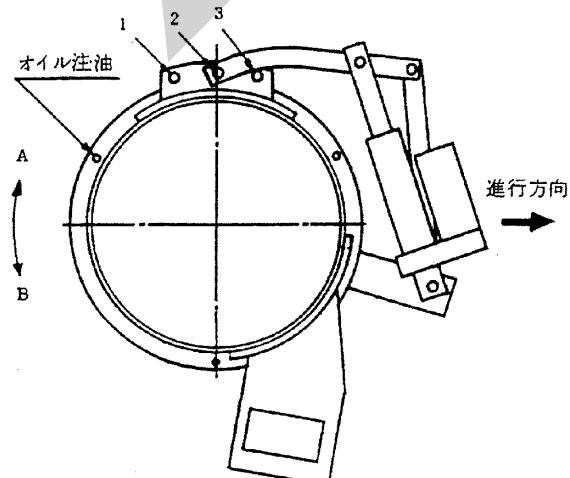
図に示すようにカウンタパイプの取り付け位置と本機後部のキャスターの高さで調整します。



2. シュートの振り量の調整

シュートの振り量はどのような作業にも十分満足できるようになっています。作業に合わせて図のように調節してください。

通常は2の位置にセットします。さらにAの方向へ向けたいときは1の位置に、Bの方向へ向けたいときは3の位置にセットします。

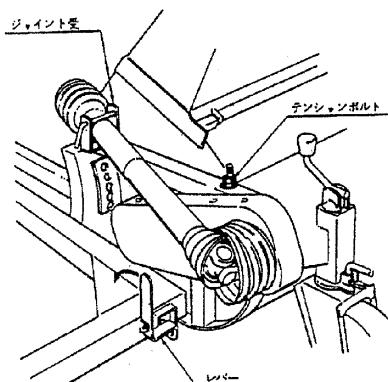


4 運搬

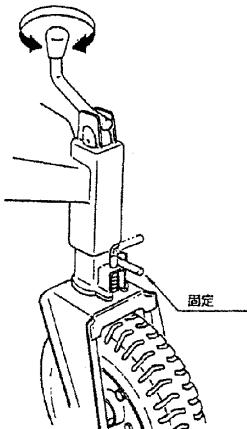
本作業機は機体幅が広い作業機です。移動する時は、トラクタ後部にけん引して移動します。

1. フレールベースユニットの取り外し

- ① フレールベースユニットのスタンドを下ろしてください。
- ② ハーベスター本体に動力を伝達するパワージョイントをドッキングフレームのギヤケースからはずし、ジョイント受に置いてください。
スイッチボックスからソケットをはずしてください。
- ③ トラクタの3点リンクの油圧レバーを下げて油圧をフリーの状態にしてください。
- ④ コネクタパイプ後部のレバーを矢印の方向にたおすとガイドピンが抜けコネクタパイプが下へはります。
- ⑤ コネクタパイプがカウンタパイプに接触していないか確認しながら静かに前進してください。



- ⑥ キャスターのロックピンを図に示すように、固定の位置にしてください。



▲ 注意

- キャスターのロックピンを回動の位置のまま引くと、移動時、作業機が思わぬ方向へ動くため、事故を起こしたり、路外へ転落しケガをすることがあります。
回動位置でのけん引はしないでください。
- 本作業機はトレッドが狭いため旋回時、凹凸地・傾斜地の走行時転倒してケガをすることがあります。
低速走行してください。

4 作業が終わったら

長持ちさせるために、手入れは必ずしましょう。

▲ 注意

- 動力を切らずに、回転部・可動部に付着したゴミ、草などの除去作業などを行うと、機械に巻き込まれ、ケガをすることがあります。
PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

1 作業後の手入れ

1. 機械の上にかかっている牧草等は、ほ場の中できれいに取り除いてください。
特に、回転部に巻き付いた草は、シール部品、軸受部品などを傷つけますので、完全に取り除いてください。
2. ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落がないか。
又、破損部品がないか確認してください。
異常があれば、ボルトの増締め、部品の交換をしてください。
3. PTO軸、PIC軸、ジョイントスライド部など塗装されていない露出部は、さびを防ぐためグリースを塗布してください。

2 長期格納する時

1. 機体各部の清掃をしてください。
2. 摩耗した部品、破損した部品は交換してください。
3. 「2-2 給油箇所一覧表」に基づき、油脂を補給してください。
また、回転、回動支点およびパワージョイントのクランプピンを含む摺動部には注油し、PTO軸、PIC軸、パワージョイントのスライド部にはグリースを塗布してください。
4. 塗装損傷部は、補修塗装または油を塗布し、さびの発生を防いでください。
5. 格納は風通しのよい屋内に保管してください。

5 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に点検・整備を行いましょう。

機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検・整備を行い、機械を最良の状態で、安心して作業が行えるようしてください。

▲ 注意

- PTOおよびエンジンをとめずに行作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。元通りに取り付けてください。

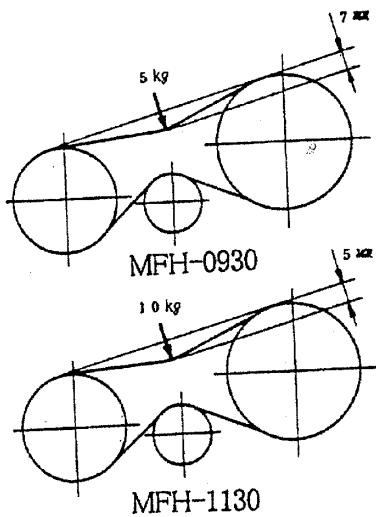
1 点検整備一覧表

時 間	チェック項目	処 置
新品使用1時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
使 用 毎 (始業終業点検)	①機械の清掃 ②部品の脱落・破損 ③各部のボルト・ナットの緩み ④各部の油もれ ⑤各部の油脂類 ⑥ナイフの研磨 ⑦タイヤの空気圧	補充、交換 増し締め シールチェック、破損時交換 「2-2 純正部品一覧表」に基づき給油、給脂
シーザン終了後	①各部の破損、摩耗 ②各部の清掃 ③各部の給油、給脂 ④回動支点等の摩耗 ⑤塗装の損傷	早めの部品交換 「2-2 純正部品一覧表」に基づき給油、給脂 早めの部品交換 塗装または油塗布

2 各部の調整

1. ベルトの調整

ベルトに張りは、図示寸法にテンションプーリに
より調整します。



2. フレールカッタの研磨

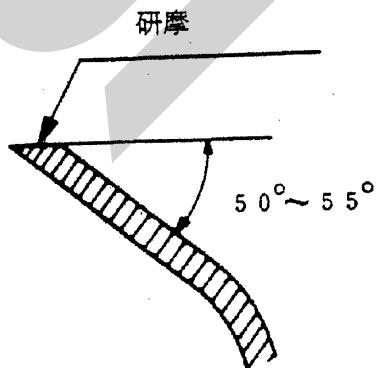
▲ 注意

- ナイフを研磨する時、目に飛散物が入りケガをすることがあります。
保護メガネを着用してください。

(1) フレールカッタの調整はダクトを倒して行います。

(2) フレールカッタの切れ味が低下した時は研磨してください。

フレールカッタの刃の角度は、図に示す程度にしてください。



(3) フレールカッタが15mm以上摩耗すると回転のバランスが保てなくなります。

この時は、フレールカッタを全数交換してください。

(4) グラインダを使用して研磨するときは刃先の焼き入れが戻らないように注意してください。

3. タイヤの空気圧

タイヤサイズ	空 気 圧
4.00-8-46PR	482Kpa (5.0kgf/cm ²)

6 不調時の対応

▲ 注意

- ナイフを研磨する時、目に飛散物が入りケガをする事があります。
保護メガネを着用してください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- PTOおよびエンジンを止めずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
PTOを切り、エンジンを止め、回転部や可動部が止まっている事を確かめて行ってください。

- 作業機をあげた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下し、ケガをする事があります。
下に入る時は、台などで降下防止をして行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。
元通りに取り付けてください。

1 不調処置一覧表

症 状	原 因	処 置
シュート・ヘッドが動かない	①バッテリとコントロールボックスの接続不良 ②ヒューズの切断 ③コントロールボックススイッチ故障	配線をやり直す。白線(+) 黒線(-) ヒューズを交換する。 スイッチを交換する。
切断物の飛びが悪い	①供給量が多い ②回転速度不足	走行速度を下げる。 適正回転速度にする。
馬力を喰う	①ナイフの摩耗	ナイフを研磨する。 ナイフを交換する。

原因や処置の仕方がわからない場合は下記事項とともに購入先にご相談ください。

1. 製品名
2. 部品供給型式(型式)
3. 製品番号
4. 故障内容(できるだけ詳しく)

2
P
A
S
T

CP

2
1

本 社	066-8555	千歳市上長都 1 0 6 1 番地 2 TEL0123-26-1123 FAX0123-26-2412
千歳営業所	066-8555	千歳市上長都 1 0 6 1 番地 2 TEL0123-22-5131 FAX0123-26-2035
豊富営業所	098-4100	天塩郡豊富町字上サロベツ 1 1 9 1 番地 4 4 TEL0162-82-1932 FAX0162-82-1696
帯広営業所	080-2462	帯広市西 2 2 条北 1 丁目 1 2 番地 4 TEL0155-37-3080 FAX0155-37-5187
中標津営業所	086-1152	標津郡中標津町北町 2 丁目 1 6 番 2 TEL0153-72-2624 FAX0153-73-2540
花巻営業所	028-3172	岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第11地割120番3 TEL0198-46-1311 FAX0198-45-5999
仙台営業所	983-0013	宮城県仙台市宮城野区中野字神明 179-1 TEL022-388-8673 FAX022-388-8735
小山営業所	323-0158	栃木県小山市梁 2 5 1 2 - 1 TEL0285-49-1500 FAX0285-49-1560
岡山営業所	700-0973	岡山県岡山市北区下中野 7 0 4 - 1 0 3 TEL086-243-1147 FAX086-243-1269
熊本営業所	861-8030	熊本県熊本市小山町 1 6 3 9 - 1 TEL096-389-6650 FAX096-389-6710
都城営業所	885-1202	宮崎県都城市高城町穂満坊 1 0 0 3 - 2 TEL0986-53-2222 FAX0986-53-2233